

道民カレッジ主催講座令和3年度第1回
地域活動インターネット講座

恐竜研究を支えるアマチュア発掘家とまちづくり ～カムイサウルス・ジャポニクス大発見の舞台裏～

資 料



アマチュア発掘家
堀田 良幸 氏



むかわ町穂別博物館
館長 櫻井 和彦 氏

パッケージ講座（こちらもあわせてご覧ください）

北海道で見つかった新属新種の恐竜～カムイサウルスジャポニクス～
北海道大学総合博物館副館長 教授 小林 快次 氏

道民カレッジ

(むかわ町穂別博物館)

櫻井館長

これが堀田さんが一番最初に見つけて我々に連絡いただいて回収してきたものです。向かって左が前で右が後ろになります。しっぽの化石。上の方が背中側で下の方がお腹側になるんですけど、このようにきれいに並んだ状態で見つかったわけなんですね。きれいに並んだ状態で見つかったことから、小林先生はまだ続きが埋まっているに違いないと考えたわけです。

現地を確認に行きましたらまだ埋まっていることがわかりました。大きい方が残っていることがわかりましたので体の方が入っている、埋まっていることが想定されましたので、これは発掘をしなければと小林先生に一生懸命言っていただきまして、これ発表の時です。2013年にやっと準備が整いまして、しっぽ見つかりました発掘しますと併せて発表したんですね。

堀田さんか見つけられた恐竜化石、通称「むかわ竜」正式名「カムイサウルスジャポニクス」という名前が付けられました。こちらの恐竜化石は全身が見つかったんですね。

全長8メートルもある恐竜で全身の約80パーセントも発見された恐竜化石というのは、このむかわ竜しかありません。そういう訳で日本を代表する恐竜化石が見つかったということで、むかわ町ではこのむかわ竜を中心に据えましてまちおこしを進めましょうという計画が持ち上がりました。

こちらか恐竜ワールド構想推進計画と言います。むかわ町全体をひとつのステージと見立てましてそれぞれの地域、例えば穂別地域だと化石の体験ですとか研究・展示のスペース、むかわ地区はまちの入り口としての地域ですとか、役割を持たせながら町全体の発展を目指していこうという計画になっています。

その中で、むかわ竜はじめ様々な化石を収集して保管して展示して研究している穂別博物館はその構想の中核的な施設として位置づけられています。

化石発見当時の様子を教えてください

堀田氏

2003年4月9日ですね。公務員していたんですけど47歳くらいから体調を崩しまして52歳の後半からリハビリの一環として散歩を毎日やっていた。そういう中で、「なんだろうこれ変色しているし骨みたいだな」と思って発見したような状態です。

私専門家でないからよくはわからないんですけど、たいがい今まで発見してきた海生ハチュウ類については水圧に耐えるために丸い状況だったんですけど、長方形みたいな形になっていたもんですから、今までと違うし、だいたい恐竜が取れるなんてみじんも考えていませんしね、これうまくいったら水陸両用のワニだったら良いなって自分では考えていました。

出てるやつは、下に置いたままにして、即博物館の櫻井さんに「櫻井さん骨出た。寄付す

るから行きましょう。」すぐ櫻井さんがスタッフ集めてソリやリュックを持って行って雪がありますから、ジープで搬出してきたんです。

(櫻井館長)

まだ雪がある中をですね、堀田さんに現地案内してもらって、確かに化石が石に包まれた状態でいくつもあるのを確認しまして、それを一通り回収しまして、雪の中をそり引きずったり背中に背負ったりしながら回収してきて堀田さんの車に積ませていただいて回収してきました。

見つけた時にはですね、化石そのものはまだ石に包まれた状態で一部しか見えていない状態だったんですね、その形から堀田さんの言うことも聞かずに私は「クビナガリュウかな」と。大きさと形がなんとなくクビナガリュウに似ていたわけです。しかも「背骨だろう」という判断をしました。何となく丸い形が見えて長い突起とかも見えたものですから、そういう特徴があるのは体の中でも腕や頭ではなく背骨なんですね。背骨がいくつか見つかったんだなという判断をしたわけです。

堀田さんが見つけてこちらに回収してきたのが 2003 年になりますけれども、7 年経ちました 2010 年国内のクビナガリュウの研究者を代表する佐藤たまき先生という東京学芸大学の先生が穂別博物館を訪ねて来てくれたんです。

穂別博物館に収蔵していたクビナガリュウと思われる標本をすべて出して見てもらったんです。堀田さんの標本もクビナガリュウと置いていたのでそこに並べたわけです。佐藤先生に通り何十個とある標本を見ていただいて、その中から 3 つ 4 つくらい気になるものを選んでいただきました。その中に堀田さんの標本も入っていて、「まだ石に包まれていますのでクリーニング作業を進めていただけませんか。また来年来たいと思います。」と言っていただきましたので、そこから初めてクリーニング作業を始めました。それが 2010 年（発見から）7 年後ですね。翌年の 2011 年佐藤先生にまた来ていただきました、これが非常に気になる。このままではクリーニングが完全じゃないので自分でもクリーニングを進めてみたいのですがよろしいでしょうかと申し入れがありましたので是非進めてくださいとお願いしましたら、佐藤先生が少しの間クリーニング作業を進めまして、その後呼ばれたわけです。「ちょっとお話がありまして」と。何でしょうと思って行きましたら「この標本はクビナガリュウではなくて恐竜とされます。」と言われたんです。

恐竜となりましたら、佐藤先生もおっしゃいましたけれども、残念ながら自分の専門ではありませんのでということで、そうなるこの穂別博物館としてどなたに研究をお願いしようかということで、北海道大学小林快次先生がいらっしゃる。小林先生は恐竜研究の日本を代表する一人でいらっしゃる、しかも北海道大学ですぐ近くにいらっしゃいますので、小林先生を置いて他にはいないだろうという結論になりまして小林先生に早速ご連絡をいたしました。

写真を送りまして、「佐藤先生に見ていただいたら恐竜じゃないだろうかというご指摘いただいたのですがいかがでしょうか」と。そうしましたらすぐにお返事くれまして「見に行

きたいです」ということですぐに来てくれました。

すぐ標本を見まして「恐竜に間違いありません」と言っていたんですね。それが2011年9月です。その時がむかわ町穂別として初めて恐竜化石が見つかった瞬間になります。

白亜紀という恐竜時代海だった北海道ではクビナガリュウやモササウルスといった海のハチュウ類はたくさん見つかるわけですが、陸の生き物だった恐竜は海だったこの場所まで流されないと化石として見つかることはできません。

そのため現在でも、北海道ではむかわ竜を含めて恐竜化石は5つしか知られていない。その4番目がむかわ竜でした。

というわけでたくさん海のハチュウ類はむかわ町穂別で発見されていたわけなんです。恐竜という陸の生き物はひとつも見つかりませんでした。その初めて見つかった恐竜化石それが初めてわかった瞬間でありました。

恐竜化石だと断定された堀田さんの反応は？

堀田氏

それがね、櫻井さんと西村さんが来て、「堀田さんひよっとしたらすごいことになるかもしらん」って一発目それなんです。二発目に来て「堀田さんひよっとしたらビッグニュースになるかもしらん」っていう話をするんです。そのビッグニュースになるかもしらんって言っているもの自体が果たして何なのかっていうのが私全然わからんのです。そして今度三回目に来た時に「堀田さんすごいぞビッグニュースだ。恐竜だ。」2003年に寄贈したもののことを言っているのか、その前にも寄贈しているから全然忘れていたんだわ。博物館に寄贈したっていうのは覚えているんだけど、どのことを言っているかわからなかった。

西村さんと櫻井さん力入っていた。一番びっくりしたのは俺だった。まさかと思った。そんなの取れるなんてみじんも思っていないからね。

ポツポツ今年も十回ほど行っているんです。だから来年何とかもうちょっとリハビリして足の筋肉付けて、無理だと思うけど、櫻井さんが現役で館長している間もう一個見つければ大変ありがたいなと考えております。

むかわ町としての取り組み

(櫻井館長)

むかわ竜の前身復元骨格、立っている姿を復元したわけなんです、全長8メートルの高さが4メートルになりまして、この穂別博物館天井があまり高くないので、何とか入れたんですけども、しっぽを付けることができませんでした。しっぽなしの状態です。

という状態になっておりますので、このむかわ竜の全身を是非見てもらいたい。そして実物の化石も並べると8メートルにもなるので、部屋一つ使っちゃいますから全部出せない。実物化石と復元レプリカを皆さんにじっくり見ていただく場所がほしい。そのような展示ができる博物館としてリニューアル・整備をしていきたいと考えております、これが大

きな課題となっています。

子供達との関わりということにつきましては町内の小中学校高校から依頼をいただいております。毎年対応させていただいております。穂別地区の小学校4年生とか高校1年生ですとかむかわ地区の中学1年生ですとか高校1年生が中心となりまして、化石の話をしましたり、実際に現地に行って化石の採取会、採取の体験をしていただいたり、室内での化石クリーニング、化石を取り出す体験ですとかレプリカづくり石膏で複製を作る体験をしてもらったりしながら、このむかわ町穂別でどのような化石が見つまっているのか、そのような化石はどのような場所にあるかどうやって見つけてどうやって処理していくのかというのを学んでいただいております。決して大きな学校ではないので十何人とかなんですけれども幸い毎年毎年続けることができますので、町内の小中高生にこのむかわ町穂別地区の宝である化石がどんなものであるのか、どんなものが見つまっているのか知ってもらうことができていると感じておりまして、この取組というのは是非とも今後も続けていきたいと感じております。

2018年にありました北海道胆振東部地震このむかわ町も震度6強という上から2番目震度段階によると激しい揺れに襲われましてたくさんの被害を受けまして亡くなった方もいらっしゃいました。大変な被害を受けた地震からの復興復旧がまちとしての最重要課題にいきなりなったわけです。

それに対しましてむかわ竜はその地震を無傷で乗り越えました。(地震の)数日前に報道会見しましたのでむかわ竜の骨がコンテナに入れられて博物館の収蔵庫に積み上げられていたわけなんです、それが全くと言っていいほど動いていなくて被害が全く無かったんです。

というわけで7200万年の時を経て甦って、経験したこともない大震災を無傷で乗り越えたむかわ竜を復興復旧のシンボルにしたいということでまちとしては現在このむかわ竜を復興復旧のシンボルと位置づけております。

胆振東部地震の後に新型コロナでまちの産業も大変な被害を受けているわけなんですけどそれが再生のためのまちのシンボルと位置づけられているわけなんです。